

住みよい町づくりを支える税

茨城県立並木中等教育学校 1年 角田 妃奈子

突然ですが、私は自分の住んでいる町が大好きです。幾つもある、友人と遊び回れる公園は常に草が刈られており、道路沿いにはきれいに整えられたツツジが植えられています。また、近年子供が急増した影響で、自宅から徒歩五分のところに新しく小学校が建てられました。私が小学校一年生の時は、近くに学校がなかったため、バスで二十分かけて登校していました。だから、新しい学校ができたときにはとても嬉しかったです。

これら全てが税金で行われていると知ったのは、小学校六年生のときに参加した租税教室でした。説明を聞きながら、友人と顔を見合わせ思わず「えっ、そうなの!？」と言い、驚いたことをよく覚えています。

去年の十月には、消費税が10%に引き上げられました。増税をめぐっては、新聞やニュースなどで、賛成・反対どちらの意見も多く目にしました。当時私は、税金についてあまりにも無知だったため、増税に賛成する人たちの気持ちがよく分かりませんでした。ある晩ニュースを見ながら、「増税なんてしなければいいのにね。」と両親に話したところ、「でも、税金が増えないと災害が起きたときにも困っちゃうからね。」と言われたのです。てっきり両親は消費税が上がることを嫌がっているのかと思っていたので、この意外な答えに驚きました。

私の祖父母が暮らす茨城県日立市は、二〇一一年の東日本大震災で、大きな被害を受けました。道路はひび割れ、建物は傾き、町は元気をなくしてしまいました。震災から九年たった今、道路や建物はきれいになり、震災が起こる前の平和な町に戻ってきたように思います。こうした災害復旧や復興にも税金が使われているという話を聞き、両親の回答にも納得しました。また、現在コロナウイルスの影響で暗くなってしまった世の中ですが、税金を使って明るくしようとしているのを、私自身も生活する中で感じています。

「税金」「増税」、このような言葉だけを聞くととても難しいイメージで、子供の私にはまだ関係のないものだと思っていましたが、私の生活も、税金にたくさん支えられているのだと知りました。税金は私たちの今の暮らしを支えてくれるだけでなく、将来の暮らしまで支える、とても大切なものです。令和二年度一般会計予算における歳入のうち、租税及び印紙収入でまかなわれる額は約六十三兆五千億円で、歳入全体の六割強を占めているそうです。この数字だけ見ても、いかに税金が大事かということがよく分かります。だからこそ、税金は大切に使ってもらいたいし、私たちも税金の使用用途についてきちんと理解していく必要があるのだと思います。税金を嫌なものだと思わずに、どうしたらより良い使い方ができるかをみんなで考えることによって、みんなが自分たちの町を大好きでいられるのではないのでしょうか。